

横浜 石川町 歴史マップ

石川町周辺の詳しい歴史を紹介します。
懐かしい写真と共にご覧ください。

歴史写真を募集しています

横浜石川町周辺の歴史がうかがえる古い写真をお貸しください。

●募集方法／別紙に、①住所 ②氏名 ③電話番号 ④年齢 ⑤撮影した場所と日付を明記の上、

❶直接お持ちいただく場合：石川商店街「伊勢屋松山商店」まで

❷郵送していただく場合：データ化したメディアを下記まで

住所／〒231-0868 横浜市中区石川町1-22

石川商店街協同組合 歴史写真展示係

※オリジナルの郵送はご遠慮ください。

❸メールの場合：info@i-canalstreet.jp まで

データ化した写真を添付(ファイル形式は「JPEG」「PDF」のいずれかの形式で1回の送信で、容量が2メガバイトを超えないようにしてください。)

※メッセージ欄に上記①～⑤を明記してください。

のいずれかで受け付けます。

★お借りした写真は、石川商店街「アイ・キャナルストリート」の石川町の歴史事業にて使用させていただく場合がございます。

注意事項／展示には、撮影場所や被写体に関する説明を加えることがあります。

また、お借りしたご本人の同意がある場合を除き、第三者に提供することはありません。

石川商店街協同組合

掲載している古写真は、
アイキャナルストリート内の店舗や
ポラード(車止め)に飾っておりますので、
是非探してみてください。



亀の橋から見た石川町駅 (1949年)



西之橋から石川町駅 (1949年)



西之橋から関内方面 (1949年)



石川町から見た西之橋 山下町方面



元町交差点から山手トンネル 西電と西バス (1949年)



▼珍しい横浜の古地図も展示しています。(だんまや水産 横浜元町店)



明治10年(西暦1877年)出版



横濱線開通ポラード (1949年)



横浜線 元町停留所から山手トンネル (1949年)

石川商店街
アイキャナルストリート
i-canal street
～平成25年4月、愛称とともに石川商店街は生まれ変わりました～

協力：明治大学商学部中川秀一ゼミナール
発行：石川商店街 石川商店街写真展示事業
横浜市中区石川町1-22 TEL045-641-4516

*本印刷物を許可なく複製複製することはたたく禁じます。 石川商店街滞留型活性化事業

◀うら面に合番号で、場所の歴史情報があります。

1 横浜市電

根岸線(京浜東北線)が1964年に開通する以前、1904年(明治37年)~1972年(昭和47年)の間、横浜市電が市内を駆け巡っていた。

山手の丘陵地の下を通るために建設された市電専用トンネル「山手隧道」は山手地区最古のトンネルである。当時のトンネルでは最大の幅員を誇った。

自動車普及によって、1972年に市電が廃止されると、道路トンネル「山手トンネル」となり、2001年(平成9年)には、横浜市認定歴史的建造物に定められた。

横浜市電が廃止されてから40年以上の月日が経過した。しかしながら、現在でも多くの写真が残されており、横浜市電保存館には当時の車両も保存されている。明治・大正・昭和の横浜のシンボルであった横浜市電は、これからも多くの人々に語り継がれるでしょう。



4 大丸谷震災地蔵尊

JR石川町駅元町口(南口)を出てすぐ東側を山手イタリア山公園方面に上がって大丸谷坂の途中、道脇の石段を少し降りた所にある地蔵尊が大丸谷震災地蔵尊である。

由来は、1923年(大正12年)9月1日の関東大震災である。震災で起きた火災からの避難民が、安全な高台を目指して大丸谷を登ろうとしたが、火のまわりが早く途中で亡くなってしまった方々を供養するために建てられた。

この関東大震災全体での死者および行方不明者の合計は、最新の調査で105,000人余りであった。

現在でも地元町民による「大丸谷震災地蔵供養祭」が毎年9月1日に催行され、日々の手厚い管理のもと人々に語り継がれている。

5 中村川の変遷

昭和初期、横浜港には水上学校ができるほど水上生活者が多く生活していた。当時、商売は主に舟運によって行われていたため、かつて問屋街であった石川商店街にとって、中村川はなくてはならない存在だった。

水上学校は親がだるま船で働いている子供たちが通う校舎であった。水上学校は1942年に山下町に開校したが、戦後の港湾施設の近代化により、水上生活者が居なくなり、現在は山手に養護学校として存在する。

1978年首都高速道路神奈川1号線が完成したことで中村川の景観の変化が始まった。現在の中村川は護岸整備によって昔とは違った様相を呈している。この護岸整備は1980~1990年に行われた。

なぜこの護岸整備が行われたのかと言うと、商店街と護岸整備によって新しくできた道の両方から商売をしたいという考えから行われた。当初の予定としては車も通れるようにしたかったが、地盤の弱さを指摘され、歩道のみにする事に決まった。

2 石川町 交通の変遷

1904年(明治37年)から1972年(昭和47年)まで、横浜の街には横浜市電が走っていた。桜木町駅前から市庁前、元町電停を通り、本牧へ抜ける本牧線が石川町を駆け抜けていた。

1964年(昭和39年)に国鉄根岸線(桜木町~磯子間)が部分開業し、石川町駅が誕生した。駅周辺には女子中・高校が多く、女学生が多く利用することから「乙女駅」という愛称で今でも呼ばれている。

1978年(昭和53年)に首都高速神奈川1号横羽線が開通、1990年(平成2年)に神奈川3号狩場線とを結ぶ石川町ジャンクションが建設された。

2004年(平成16年)に横浜高速鉄道みなとみらい線(横浜~元町・中華街間)が東急東横線と直通開業、さらに2013年(平成25年)に東京メトロ副都心線・東武東上線西武池袋線の相互直通営業が開始され、横浜と埼玉を鉄道が結んでいる。



3 町名の由来

「いしかわむら」の地名が古文書に初めて現れたのは鎌倉時代の1233年である。その古文書では「武蔵国久良郡平子郷石河村」と記されている。現在の横浜地域では数少ない鎌倉時代からの地名の一つである。次に古いのが南北朝時代末期の1389年の古文書で「石川村」と記されている。なお、古文書では「石川村」が「石河村」のどちらかで表記されている。おそらく平安時代の時点で「いしかわむら」は開発されており、鎌倉時代には既に存在していたと思われる。

江戸時代初期での石川村は、現在の元町・石川町・打越・中材町・唐沢・平楽・八幡町・山谷・睦町・堀ノ内町あたりで、今より遥かに広い土地であった。明治6年の1873年1月、歴史的に由緒ある「石川」の地名を復活させて「石川町」という町名ができた。ちなみに、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が、かつて「the Street of the Stony River(石の多い川)」と英語で直訳している。

●こちらに掲載した内容は、文献をもとに地元住民からの取材・情報を加えております。

<http://www.i-canalstreet.jp>

アイキャナルストリートのホームページの商店街活性化事業→石川町の歴史→歴史掲示板に明治大学中川ゼミの学生が独自に作成した「石川町の史実」第1~7号が掲載されています。うれしいグルメレポートもあります。



交通の歴史年表

1904年	横浜市電開業	 横浜市電
1964年	JR根岸線石川町駅開業	
1972年	横浜市電全線廃止 横浜市営地下鉄開業	 みなとみらい線
1978年	首都高速道路 神奈川1号線完成	
1990年	首都高速道路 石川町JCT完成	 JR根岸線(現在)
2004年	みなとみらい線開業	
2013年	みなとみらい線が埼玉方面と相互直通	 JR根岸線(旧車両)

6 鶴屋呉服店

かつてこの石川町には鶴屋呉服店があったのをご存じだろうか。鶴屋呉服店は現在の東京・松屋デパートの前身であり、1869~1923年の関東大震災が起こるまでの54年間、ここ石川町で営業していた。

鶴屋呉服店は、百貨店の前身として明治時代末期から大正時代にかけて亀の橋に大建築を誇っていた。豪華な商品がぎっしりと並べられていたことも地域住民にとって驚異であった。現在の石川町駅から150mほど離れた地蔵坂下に位置していた。

しかし、関東大震災の影響で、全館が炎に包まれてしまった。大正の後期に鶴屋呉服店が焼失したことは、ここを軸としていた付近の地区に重大な転機をもたらしたといえる。

鶴屋呉服店は、その後修復することなく中区伊勢佐木町に進出することとなる。



7 地蔵坂

地蔵坂は、石川町の坂下から山手の坂下までの一本道のことを言う。かつての地蔵坂にあたる坂は地元の人々が通る山道で、あったのだが、次第に本牧の方へ訪れる人々が増え始め馬や車が通り始めると道が狭いということで道路工事を行った。明治時代の事である。

その際に、泥の中に60cm位のお地蔵様が埋まっていたのを掘り出して、そのお地蔵様を坂の途中に祀ったことが地蔵坂の由来である。

かつて地蔵坂は関内・埋地地区と本牧方面への数少ない交通路であったため、当時横浜のメインストリートであった。ちなみに、2代目のお地蔵様は最初、坂の上にあったが、お参りに行きにくいということで現在は坂下にある。

しかし1928年の山手隧道(山手トンネル)の開通、打越の切通し開削によって通行量が減少した。このため店を閉じる商人が少しずつ増え始め現在の地蔵坂に至っている。